

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育課程の再編成と実施方針に基づき、各コースの教育内容の特質に応じた体系的な学習に導く授業科目を開設し配置する。	→教育課程表の見直しと規程の改正	B	B	A	A	A
2. 初年時教育を強化し、履修基準年度を見直し、履修単位数制限を強化し、教育効果の向上を図る。	→必修科目の増加数、履修基準年度の見直し数、商学演習の履修率の変化、研究演習の開講数と所属率	B	B	A	A	A
3. 産業界との連携により実践的教育方法を導入し活用する。	→該当する科目・クラス数および履修者人数	B	B	A	A	A
4. マルチメディアを活用した教育の強化を図る。	→該当する科目・クラス数および履修者人数	B	B	B	B	B
5. 外国語教育と専門教育に関する学力の保証を図る。	→TOEICの平均点、各専門科目の合格率と平均点、日商簿記検定をはじめ各種検定試験の合格率など	C	C	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度および2011年度の2年間、執行部・カリキュラム委員会を中心として教育課程の再編成に向けた準備を行い、教授会での決定に基づき、2012年度入学生より新カリキュラムの適用を開始した。2013年度には、学部FD委員会を2回開催し、教育課程に関する検証を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教育課程に関して、現時点では特段の問題点等はないとの結論を得た。なお、教育課程のより一層の体系化・明確化を図るために、科目ナンバリングの重要性が指摘された。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 科目ナンバリングに関して、学内外の導入状況を調査し、実施に向けた準備を開始する。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度から実施した新カリキュラムでは、簿記基礎に加え、1年生対象の経済学基礎の必修化、選択必修科目(商業簿記I・ビジネス会計入門・英文会計)の新規開講を実現した。履修単位数制限はすでに2010年度に必要と思われる水準まで引き下げを行っている。2013年度には、学部FD委員会を2回開催し、初年次教育に関する検証を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2012年度より、必修科目は1科目から2科目に増えた。2013年度商学演習の履修率は99.83%(所属なし1名)(2012年度100%)であった。2013年度研究演習の開講数は31、所属率は77.2%(2012年度開講数31、所属率75.3%)であり、課程に相応しい教育実態となっている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 科目ナンバリングの実施により、教育効果の向上を図ることを検討している。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部執行部、教授会構成員の取り組みにより、産業界との連携による実践的教育として、継続的に寄附講座を開講している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度については寄附講座開講数9科目、受講者数2007名となっており、2012年度(開講数9科目、受講者数1671名)と比較して、受講者数は増加傾向にある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 産業界側の厳しい事情をふまつつも、大学との連携の意義等について更なる意思疎通を図り、寄附講座の維持拡充に努める。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか マルチメディアを活用した教育については、該当する科目数、クラス数および履修者数とも、ほぼ変わっていない。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か PC教室数の制約が非常に大きな問題であると考えている。また、スクリーン配置等、設備面に問題のある一般教室が依然として多く残されており、早急な改善が求められる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教務機構に対して、継続的に教室設備の改善、教室数増加を要望していく。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
目標5	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度からは、従来の1年生に加えて3年生にもTOEICの受験を求めている。また、従来から、単位認定制度により各種検定試験の受験を促している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 日商簿記検定をはじめ各種検定試験の合格率を把握することはできないため、各種検定試験による単位認定の状況により代替すると、2013年度および2012年単位認定者数(認定単位数)は、それぞれ324名(1403単位)、369名(1476単位)589名(3,071単位)であり、若干の減少傾向を示している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 新入生向けガイダンス、各授業担当者による案内、演習担当者等による指導を継続的に行い、より高い平均点・合格率を目指す。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
備考			☆